

ノーリフティングケア普及啓発事業 実践報告

尊厳あるケアの実現と
職員の安全確保に向けて

医療法人ミネルワ会
老人保健施設ミネルワ



施設概要

施設名：老人保健施設ミネルワ

所在地：松山市高岡町302-2

開設：1995年6月1日

定員：100名

協力医療機関：渡辺病院



理念

利用者様の尊厳を守り、安全に配慮しながら生活機能の維持・向上を目指し総合的に援助します。また、家族や地域の人々・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

なぜ取り組むのか：応募の理由



職員の身体的負担軽減

- 腰痛の予防と軽減
- 安全で安心できる職場環境

ノーリフティングケア
の理念への共感



利用者の尊厳あるケア

- 「持ち上げない」ことによる安心感
- 信頼関係の深化

キックオフ宣言：意識改革のスタート

**本日をもって、私たちは「ノーリフティングケア推進事業所」
としての第一歩を踏み出すことをここに宣言します。**

この採択は、愛媛県から与えられたチャンスであり、同時に私たちへの期待の証でもあります。

私たちはこの期待に応え、職員全員が同じ方向を向き、「腰痛ゼロ」「持ち上げないケア」「働きやすい職場環境づくり」を目指します。



腰痛ゼロ



持ち上げない



働きやすい職場

現場が抱えていた課題



知識と理解の不足

ノーリフティングケアに対する
正しい知識が浸透していない



介助方法の不統一

職員によってやり方がバラバラ
(自己流の介護)

⚠ 移乗・体位変換時のリスク



職員：腰痛リスクの常態化



利用者：褥瘡発生リスク・持ち上げられる不安

本事業における3つの到達目標



1. 必要性の理解

ノーリフティングケアがなぜ必要なのか、全職員が深く理解する。



2. 介助方法の統一

職員全員が同じ手順、同じ方法で介助を実施できる状態にする。

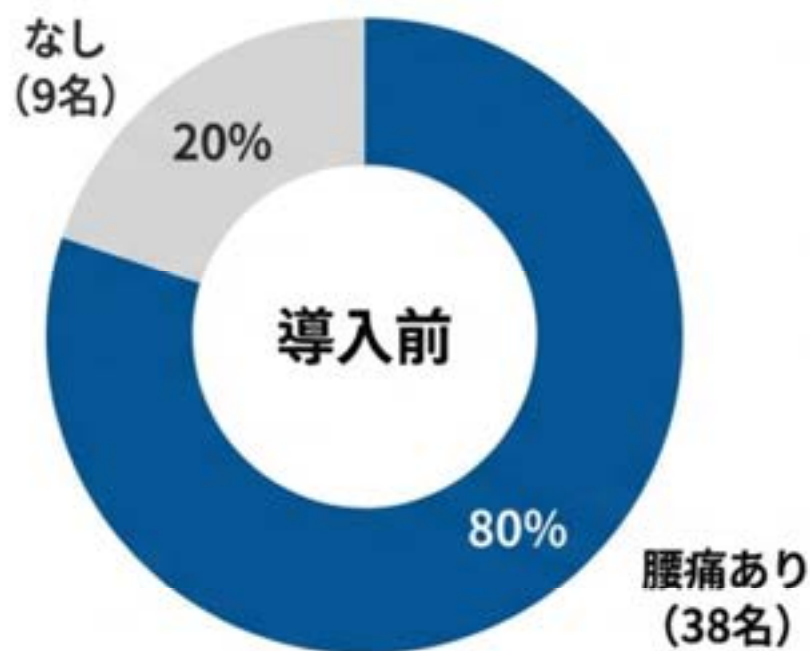


3. 腰痛・褥瘡の予防

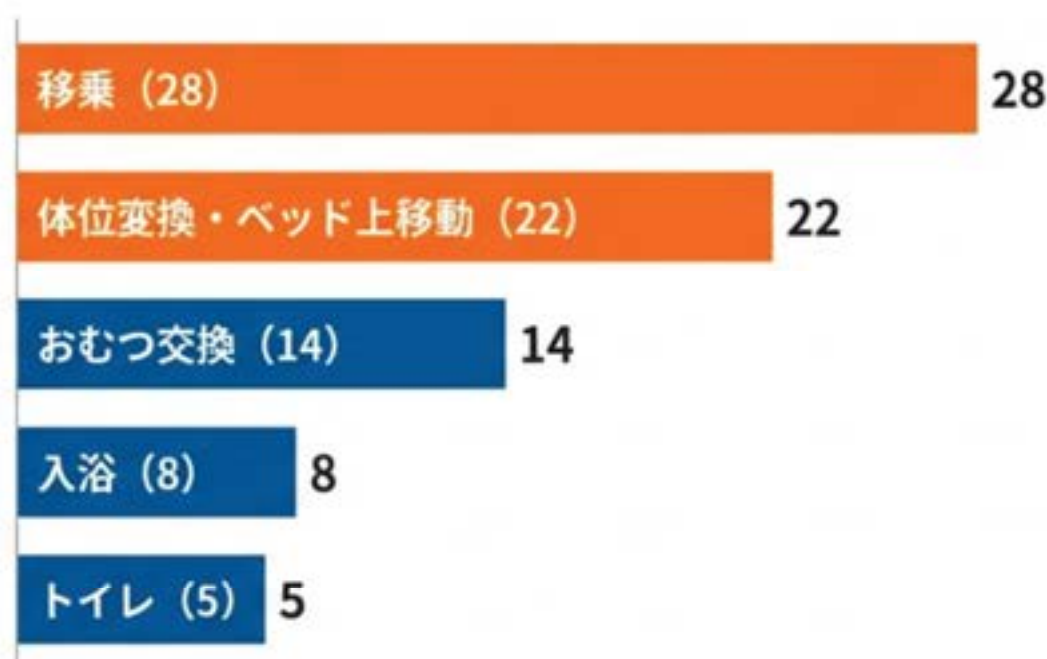
福祉用具を適切に活用し、職員の腰痛と利用者の褥瘡を防ぐ。

現状分析：スタッフの8割が抱える身体的負担

スタッフの腰痛有訴率（導入前）

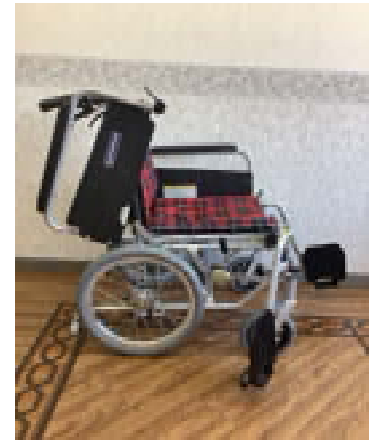


負担の大きい介助場面



「持ち上げる（移乗）」と「押す・引く（体位変換）」動作が腰痛の主要因となっている。

使用福祉用具



推進事業所としての取り組みの流れ

体制構築



ノーリフティングケア
推進委員会の立ち上げ

外部からの学び



- 伴走支援説明会への参加
- アドバイス研修
(済生会小田老人
保健施設ふじの園)

内部への浸透



施設内研修・個別研修
内容：福祉用具の使い方、姿勢の見方、ポジショニング

個別研修



教育の壁を越える工夫：動画研修



Problem

シフト勤務で研修に参加できない



Solution

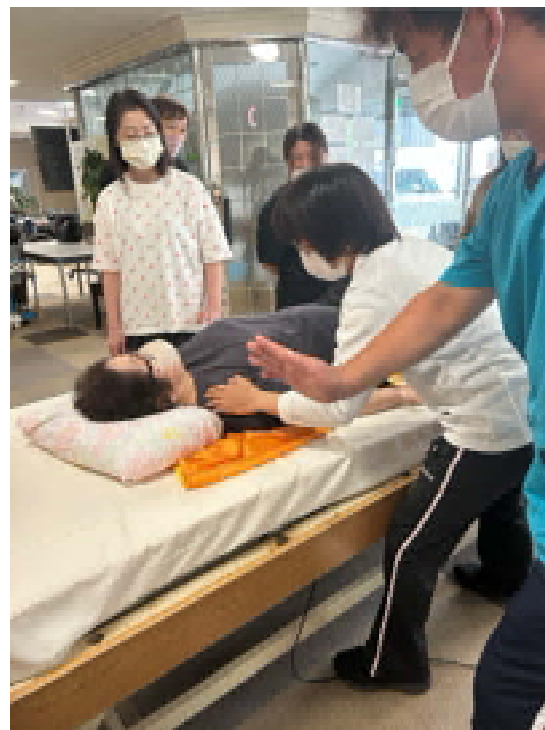
研修内容を動画化し、いつでも視聴可能に



Benefit

情報の漏れを防ぎ、全職員への浸透を図る

施設内研修



ポジショニング実施





腕を乗せ
胸郭を拡げる

空間を作り
褥瘡部が当たら
ないようにする

大腿部を支える

下腿が後方
に落ちない
ようにする

足底を付け
安定させる

ポジショニング実施





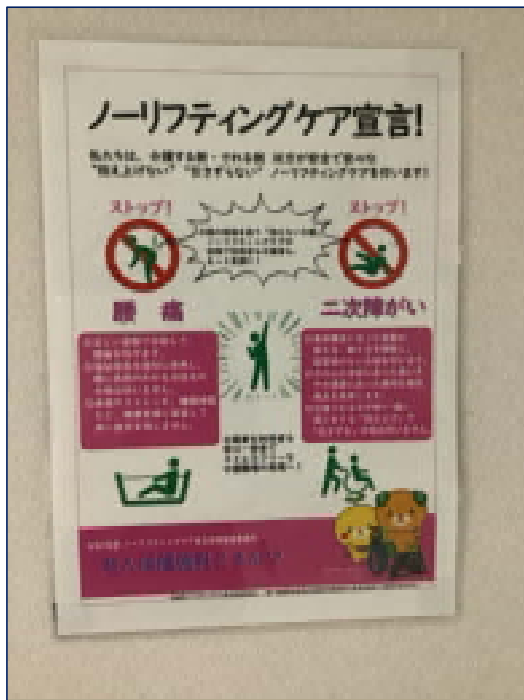
お尻の後ろに
バスタオル
(骨盤後傾の補正)

右への傾きを防ぐ

肩の高さを揃え
歪みを正す

股関節脱臼を防ぐ

意思の見える化:ポスター作成・掲示



視覚的な啓発ツールを作成し、職員、利用者様、ご家族の目に触れる場所に掲示し、意識を変革。常に「抱え上げない」意識を現場に浸透



ケアの標準化:マニュアル作成

【マニュアル作成】

ポジショニング、移乗、
用具使用法を明文化

【自己流からの脱却】

「個人の技術」から
「チームの標準」へ

【サービスの質の均一化】

誰が担当しても同じケアを
提供

オレンジボードを使用した移乗



- ベッドと車いすの高さは同じ、または移乗先が少し低くなるように調整。
- 頭からお尻までが乗るように。



2名にて支えるようにして滑らせる。



環境整備：福祉用具の配置



ベッドサイドへの
専用スタンド配置

【福祉用具の定位置管理】

- ◎使いたい時にすぐに使える環境を作る
- ◎部屋割りの見直し

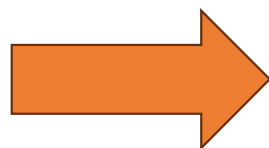


すぐに取り出せる
棚の整備・配置

現場実践(OJT)

- ◎ 実際のケア場面での直接指導
- ◎ 研修で学んだ知識を技術として定着
- ◎ その場での修正とフィードバック





滑りやすい浴室環境でも、スライディングボードを使用することで、転倒リスクと身体的負担を大幅に軽減

定量評価：腰痛なし層の倍増



全スタッフ47名中、約10名が「痛みあり」から「痛みなし」へ移行。職場環境の劇的な改善を示すデータとなった。

定性評価：現場スタッフの声



体重の重い利用者の方や、支持性低下がみられる利用者の方の移乗時、ベッド上での体位変換で持ち上げることがなくなっているので負担が軽減しています。



機械浴でのスライディングボード使用により腰への負担が大きく軽減した。



入浴介助、移乗介助の負担が減った。
夜勤明けの離床が楽になった。



除圧グローブを多用している。

成果：負担からプロフェッショナルへ



介助方法の統一

自己流が減少し、チームとしての標準ケアが浸透



意識の変革

「持ち上げる/抱える」から「滑らせる/支える」へ



尊厳と安全

ポジショニング等の定着により、褥瘡リスクと身体負担が低減



福祉用具の使用が「特別なこと」から「当たり前」の文化へ

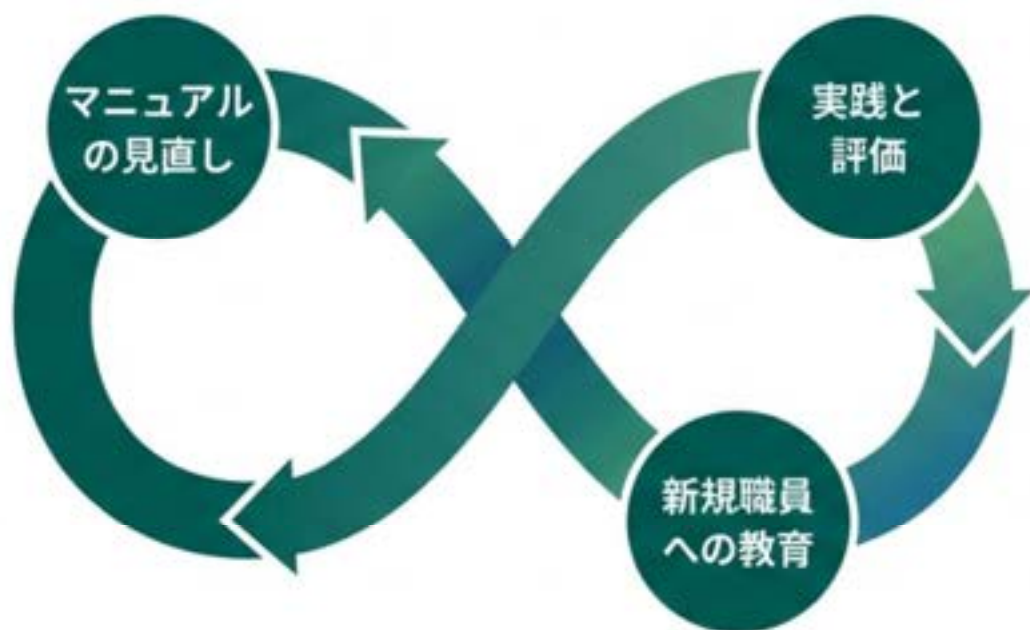
課題：成果は得られたが残る課題

○福祉用具の整備・活用が十分とは言えない

- 福祉用具の台数不足を背景に、必要性があるのにも拘わらず
使用対象が一部の利用者様に限定されている

⇒ 福祉用具の計画的導入と継続的な研修を行い、
全ての利用者様が、ノーリフティングケアの恩恵を受けられる
環境作りが必要

今後の展望：終わりになき改善



- PDCAサイクルを回し続ける
- 移乗だけでなく、生活全般のサポートへ範囲を拡大
- 「ノーリフティングケア」を施設の永続的な文化にする



職員も利用者様も、 安心できる施設へ

～ トータルセーフティケアを目指して～

ご清聴ありがとうございました

医療法人ミネルワ会 老人保健施設ミネルワ

